

自分の人生を、次世代に引き継ぐ

～ 飯舘村民自分史づくりプロジェクト ～

村は、昨年度に続き、希望する70歳以上の村民の方々の人生をつづる冊子「自分史」の作成事業を行いました。
この事業は、村が協定を結んでいる福島大学の協力を得て実施しています。福島大学の学生が、20人の村民にインタビューを行い、1冊の「自分史」にまとめました。参加した皆さんが、これまでの人生を振り返り、家族や次の世代に語り継ぐ大切な一冊となります。
2月14日には、交流センター「ふれ愛館」で、完成発表会及び贈呈式が開かれました。



自分史を作成した村民の皆さんと、インタビューを行った学生が集いました

「人生」や当時の思いを聞き、1冊の本として未来に残すお手伝いできました。聞き取りを通して「つながり」を大切に生き方を知ったことが、自分のこれからの人生について、深く考えるきっかけになりました。



渡邊守男 さん
(小宮)

福島大学行政政策学類
3年 小川航輝 さん

インタビューを受けました!

孫と同年くらいの方の大学生にインタビューしてもらった。これまでの人生を振り返り、次の世代に残せるものができた。自分の人生が1冊の本に残せるということは、家族にとって宝物となる。村に生きてよかったと思う気持ちを残せることに、感謝したい。

インタビューを行いました!

つないでいきたい、村民の優しさ

事業が始まって2年目。昨年の1冊目と今年の2冊目を合わせて、これまでに40人の方の「自分史」を作成しています。

インタビューを担当する大学生が自宅を訪ねると、お茶や漬物を振る舞ってくれたり、お土産まで持たせてくれたり。村民の皆さんのそんな姿からも、大学生には感じるものがあつたようです。「本を作る中で関わった方々の優しさや思いやりも後世につないでいくべきものだと感じました」と感想を残しています。



インタビューを行った学生達のゼミの先生です



福島大学行政政策学類
大黒 太郎 准教授

学生は、村民の皆さんから、仕事ばかりで苦勞の絶えなかつた人生のお話をたくさん聞いてきました。しかし同時に、働くのは家族のため、苦勞の中でも夫婦や友人、村の仲間たちと助け合ってきた皆さんの人生は、愛や思いやり、優しさにあふれていました。

がんばって働くこと、家族や地域の仲間達と一緒に活動すること、思いやりとお互い様の精神でみんなと接することなど、これから社会に出る学生達が、苦勞の中でも人生を楽しく、充実したものにするためのヒントをたくさんいただきました。



今回作成した「飯舘村に生きて 20人の足跡2」に掲載されているのは、20人の方の自分史です。完成した冊子は、交流センターふれ愛館で閲覧できる他、貸し出しも行われています。村の歴史や、村をつくってきた方々の足跡が浮かび上がってくる素晴らしい本となっています。ぜひ手に取って読んでみてください。

